

ほほ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどつした事でしよう。」)

発行 有限会社ナツブ
編集責任 中田 等
発行日 令和二年三月
問合せ先 〇九八五五一七四〇九

ランチ野郎

見参!

『ランチ野郎』の巻

以前、『バナナマンのせっかくグルメ』を見ていたら、日村さんが佐賀関にロケに来ていました。

佐賀関は言わずと知れた関アジ関サバの有名な場所です。そこで地元の人から勧められたのは「関あじ関さば館」の海鮮丼と云うことでした。

行ったのは、二月二三日(天皇誕生日)で、待ち時間を覚悟して早めに自宅を出発、到着したのは十一時十五分でしたが、道路にガードマンが二名立って満車なので近くの堤防に停めてくださいと言われました。

妻を降ろして順番待ちをするように頼んで堤防に向かいましたがそこもすでに満車状態でした。

私が頼んだものは「関の

海鮮丼」、妻は「豊後の天井」、両方とも千二百円(税別)で、もやしナムル、ゴボウの漬物、アオサのお味噌汁が付きます。



私が食べた「関の海鮮丼」は関アジ関サバではないそうですが、(関アジ関サバの基準に満たしていないもの)丸々一匹のアジや、サバ、ほかの白身魚、サザエの刺身、などがどれも新鮮でプリプリの食感が美味しかったです。

そして妻が注文した「豊後の天井」には、エビが三匹、魚の天ぷら、シイタケやエリンギ、野菜の天ぷらなど盛り

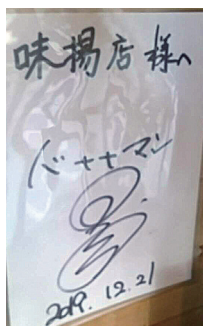
沢山で、私が食べるのを手伝うほどでした。

関アジ関サバ館で満腹になりましたが、近くに日村さんがロケに行った丸和味揚店という唐揚げ専門店に行きました。



こここの唐揚げも美味しかったです。が、やはり、ひっきりなしにお客さんが来店していました。

今回の教訓、「人気番組で紹介された店には覚悟して行け！」(大)



販促用品開発話 〜和集合〜

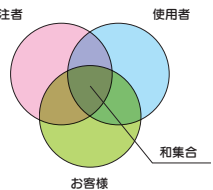
二〇二〇年の開発スケジュールに沿って、日々販促用品の開発をしています。

オリジナル製作でお問合せ・ご相談頂く場合は、細かいことまで色々質問させていただきます。

例えば、発注者様と使用者様が同じ方なのか、別の方なのか、別の方の場合だと、展示会場の状況だったり売り場の状況だったり、せっかくお作りしても使用者様にとって什器の使い勝手が合わないケースがあります。

納品後、しばらくしてバックヤードに引込められていたり、解体されているケースもあります。

発注者様と使用者様、発注者のお客様の「和集合」を構築し、ご提案させて頂いております。



(帖)

チヨースンのよくある話 〜営業電話〜

仕事中に色々なお電話を会社宛に頂くのですが、営業電話もそのひとつ。

何件も受ける中で思うのが、「電話を切らせない」が目的になっている方が多い。電話を取ったら最後、とこ

とん話し続ける、または決裁者に取り次いでもらうまで離さない!という勢い。

良いサービスがあって、紹介したいから電話する感じは全くしない雰囲気。

電話自体、既に相手の時間も奪っていて、そのマイナスを埋めるほどの内容なのか? 私自身も取引先様との電話に無駄がないか? LINEやメール、SMSもあるこの時代において、最も効率的なツール

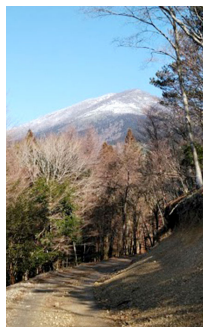
を選択・使用出来ているのか?と考えられます。

(帖)



いんちきクワイマーが行く！

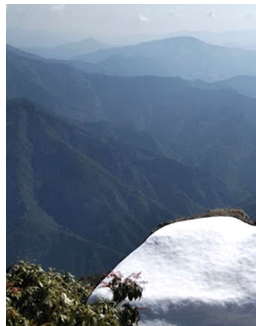
「九州脊梁の盟主 雪の市房山」編



宮崎県西米良村と熊本県水上村の境にそびえたつ、標高1700m越えの雄大な山容。古くから山岳信仰の山として崇められているのが、市房山です。何度も登っている山ですが、いまだその魅力は褪せることはありません。特に春はピンク色のアケボノツツジが、桃源郷のような景色を見せてくれます。冬は白銀の世界となり、音も色もない空気感の中で雪を踏んで歩く感触は最高です。

上米良地区の舗装林道を標高900mほど凍結路面に注意しつつ四駆車で上がると、五合目の登山口です。ここから山頂を目指して登りはじめます。

沢沿いの斜面を注意深く足を運びつつ登っていくと、六合目の林業作業道へ出ます。しばらく平坦な道を歩くと作業小屋へ辿り着きます。きれいな水洗トイレもあり、泊



まりはできないけれどゆっくり風をよけながら休憩ができません。ここで一息入れて、いよいよ急登がはじまります。ヒノキ林をすぎて自然林に景色がかわると、八合目へ。ここは馬酔木(あせび)がびっしりと植生しており、気の早いウグイスが花の蜜を求めて飛んでいました。

雪はいよいよ深くなり、岩場は凍結、滑ると大変なのでここでアイゼンを装着。十二本歯の鉄の爪がしっかりと地面をホールドしてくれます。ヒーヒー言いながら登り続けると汗が顔を伝います。立ち止まって休憩すると、こんど



は顔が乾いた汗と寒さで突っ張ってきます。もうどうにでもしてくれい！状態が続きます。九合目の標識を越える



ようやく斜度がゆるみ、マイペースで歩けます。しかし雪に足をとられてなかなか一步を進めるのも大変で、疲労度は通常の倍かかっています。そして山頂へ到着すると、物好きな登山者達でにぎわっております。声をかけあい、しばし山頂からの景色に見とれます。とはいえ、動かないと寒さがツワツワやってきますので、立ったままコーヒーとアンパンでお腹をみたくしてすたごらささと下山です。そんな楽しい山でした！(賢)



は顔が乾いた汗と寒さで突っ張ってきます。もうどうにでもしてくれい！状態が続きます。九合目の標識を越える

ストレス...



私は、昔から無性にイライラすると片付けがしたくなる。時間に関係なく始めてしまうので、家族もいい迷惑だと思ふ。

明日が、燃えるごみの収集日だと要らないものは無いかと、家の中を一通り見て回る。そして、ごみ袋が満杯になると満足するのである。

うちには、食器棚の下の部分しかない。

今まで処分したのは、タンク、食器棚、収納棚、仏壇(コンパクトなものに買い換えた)、ドレッサー、机、ベット等がある。

これらは、全て、私が一人で解体してごみの目に出した。木材、金属、ガラス等に分別して処分しないといけないので、なかなか大変だった。

その上、小さいノコギリとドライバーと釘抜きだけで、解体作業をするので、かなり時間がかかる。

しかし、解体が済んだ時の爽快感は、格別である。

ごみ収集車が、解体物を運搬してくれると、一仕事が終わったなと思ひ、大満足する。

娘は、喜んでくれる。なぜなら、親の死後の片づけが、凄く楽だからである。

しかし、私は、実家の片付けを考えると、ゾーとしてしまふ。

なぜなら、私の母が整理整頓が苦手なうえに、几帳面でないからである。

この年になると、この母を反面教師にして、私の性格は、形成されたのかなと考えてしまふ。

時々、実家に帰って汚部屋を整理整頓しているが、なかなか、母が物を捨てさせてくれない。

今は、私の体力があるから何とかなるが、これから先どうすればいいのか、わからない。

物を壊したり、捨てたりする事が、私の最大のストレス発散であるが、うちには、もう壊す物がない。

この先どうしたらいいものか？ 早く、実家の片付けがしたい。(笑)

編集後記

連日ニュースでコロナウイルスのことが報道されています。沖縄以外の九州はまだまだ安全と思っていた矢先、福岡熊本に...外出する時はマスク着用、帰ってきたら、うがい手洗いを徹底しております。

土曜の夜十時からある、安住さんとたけしさんのニュースでビックリする事が...コロナウイルスの発生件数を表示するフリップで宮崎県のとこに三件と書いてあり、しかも熊本県と書いてあるという...: どれだけ宮崎知られてないんよと悲しくなりました。熊本県にも失礼。安住さんが謝罪していましたが...

兎にも角にも、一日でも早くコロナが終息してくれるのを願うばかりです。オリンピックが心配になってきました。皆さんも最低限のウイルス対策をしてくださいな。

(光)